

気づき

～「あれ？」「なんか変だな？」～

校長 高田 晶子

衣替えの季節になりました。毎朝、長袖と半袖どちらにしようか迷う方も多いと思います。少しずつ秋の訪れを感じながら「〇〇の秋」を楽しみたいところです。PTAの方が校内の花の苗を夏から秋の装いへと植え替えてくださいました。ありがとうございました。



10月に入り、学校生活は通常授業が再開されました。まずは平常の生活がもどってきたように思います。行事に向け準備を進めながら、生徒たちの生き生きと取り組む姿に、学校全体にも活気が出てきたところです。

さて、最近のコミュニケーションの視点から、「気づき」を大切にしたいと思うことがよくあります。気づいたからと言ってすぐに口にすると、「そんなこと言ったら失礼だ」とか、「気にしていたのに」と叱られることもあります。他人の変化に気づくことは日頃からのコミュニケーションの賜物だと思うのです。声を掛けられた人も、「自分のことを気にしてくれていたんだな」と嬉しい気持ちになると思います。最近は、対面で人と会わなくても、SNSを使って言葉のやり取りができる様になり、「気づき」というより想像の世界でコミュニケーションを取ることも多くなっています。しかし、こうした「気づき」は、自分の感性を磨いたり、思いやりの気持ちも育てられる、大事な生きる力だと思います。

「自分的には」「私的には」という言い方が気になるようになって久しくなりました。この「的」という言葉が、「そのものではないが、それに似た性質を持つ」というあいまいな表現として使われているようです。流行語というわけではないのですが「自分は」「わたくしは」と自信を持って表現できないけれど、とりあえず自分の発信は大事にしたい、一方通行の主張が増えてきているのも最近の傾向のように思います。双方向でのやりとりが大切だとわかっている人も勇気を持って表現できない人が多くいることに、いささかの違和感さえ感じるところです。

「気づき」の第一歩は、「あれ？」「なんか変だな？」というノンバーバルコミュニケーション（非言語）で感じることからだと思います。ノンバーバルは人の表情、声の調子、香りなど五感を使って捉えることができるコミュニケーションです。そして、次に言葉で伝えられるようになれば相手に対する思いやりの気持ちも磨かれていくのでしょうか。